

“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ12-23）

# 小さな群れ

カトリック美唄教会

2021年8月 No.291

2021年7月25日発行

主任司祭 ナルチゾ神父

7月になってから毎日猛烈な暑さに襲われています。その上コロナウイルスがまだまだ当分の間、私達に不自由をかけるでしょう。

**お盆は、8月15日を中心に8月13日～16日の期間に行われます。**  
元々は7月15日を中心に行われていましたが、明治時代に暦の国際基準化を目的に行われた改暦に伴い日本の行事は全体的に30日遅れとなりました。そのため、現代では8月15日を中心に行われています。

## 8月15日は聖母の被昇天を祝います

聖母の被昇天の祝日は、1950年に「無原罪の聖母が地上の生涯の終わりにからだも魂もろとも天にあげられた」と教皇ピオ12世によって定義された

日本と聖母の祝日の不思議な関係。

ここで、日本と聖母マリアの記念日との不思議な関係についても触れておきましょう。  
1549年に日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルが、初めて鹿児島に上陸したのは8月15日でした。そこでザビエルは、日本を聖母マリアに捧げて、その保護を祈ったと伝えられています。そのせいかどうかは分かりませんが、日本の歴史的な出来事と聖母マリアの祝日は、実によく重なっているのです。

真珠湾攻撃によって太平洋戦争が始まったのが、1941年12月8日、この日はカトリックの国では盛大に祝われる「無原罪の聖マリアの祝日」です。

太平洋戦争が終わったのは、1945年8月15日で、この日は「聖母マリアの被昇天」です。

その後、サンフランシスコ講和条約が調印されたのが、1951年9月8日で、この日は、  
聖マリアの誕生日に当たります。

さらに日本の建国記念日の2月11日は、「ルルドの聖母の祝日」となっています。



## 2021年8月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ  
2021年8月 No.291  
2021年7月25日発行

8月は聖ヨゼフへの祈りをします。 p 21

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
1	日	年間第18主日	午前11:00		
6	金		午前10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
8	日	年間第19主日	午前11:00		ミサ後運営委員会
13	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
15	日	年間第20主日	午前11:00	聖母の被昇天	慰霊祭追悼ミサ
18	水		午後6:00	ロザリオの祈り	
20	金		午前10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
22	日	年間第21主日	午前11:00		
27	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
29	日	年間第22主日	午前11:00		

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前10:30** 6・13・20・27日です  
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日 (敬省略)		清掃当番	花 当番
11日	クララ 米通 心・船野 由美 ウツケッドウ・恵美	第2週 山本・菅野 第4週 中村	東
15日	被昇天マリア 建部 絢子・加賀 綾子		
21日	聖ピオ10世 菅野 牧雄		
27日	モニカ 三間 信子・坂本 礼子 ウツケッドウ・すみれ		
	米通 理奈・松本 久美子		
28日	アグスチーノ 菅野 仁		

## 【お知らせ】

◎6/27の聖ペトロ使徒座への献金6300円でした。司教館に送付致しました。

◎8/7滝川、砂川、美唄の共同墓地の祝福を砂川の墓地で行います。  
時間は11時30分からです。

## 移ろい

ストーブの前に座って黙って火を見つめている。ただ飽きることも無く、何を考えるでもなく、黙ってじっと座っている。顔には十分過ぎるほどの年輪を刻み、自分の気持ちを人に伝えるでもなく、まして押し付けるでもなく、ほとんど喋ることは無い。ただ水が流れるように、刻の流れの中に無造作に自分を置き、昔を思い返すでも、未来を想うでもなく、踊る炎の先をじっと見詰めている。そんな私を、私は遠くから見たい。

## ストーブの穴より洩れて仄明かり 薪爆ぜる音の聞こえて静かなり

### 馬糞風

相当昔、おそらく小学校の高学年だったと思う。学校からの帰り、新しい学生服を着て、春の雪解け道を歩いていた。家から町までの冬道は、降った雪をそのつど踏み重ねてゆく訳であるから、自動車の通れるような状態ではなく、運搬は専ら馬糞であった。道に落とされた馬糞は、冬の間は次から次へと雪が

降るのであまり目に付かないが、雪が解け始めると、それこそ一面が馬糞の絨毯となってしまう。

路面は、冬の間には雪と馬糞とが交互に且つ一緒に踏み固められ、凍りついてカチカチに成っている。春が近づき表面から少しずつ解けてくると、全体が馬糞で覆われて行き、ちようど断熱材を掛けたようになつてなかなか解け辛くなる。

さらに暖かくなつて来ると、氷の表面に水気を含んだ馬糞を載せたようになり、非常に滑り易くなる。あつと思つたときには遅く、足は天を指し、尻から背中にかけて馬糞まみれである。

やがて、雪も氷も解け、道路が乾いて来る頃になると決まって強い風が吹き始める。ちようどブラオで田や畑を起す頃である。

その強風で道路に溜まっていた馬糞と土埃が一緒になつて舞い上がり、視界は遙かに霞み、全てが埃っぽく、いつも目を赤くしていたものである。

俗に云う馬糞風である。

今、もう一度あの昭和の馬糞風に吹かれてみたいものである。

## 馬糞風今は昔の語り草

### 下校時の道草ばかりに馬糞風